

「故郷のことを思い
信念貫き頑張る」

阿具根参議の副議長就任祝賀会



阿具根さんは元氣な姿を会場に見せ、「副議長は無所属だが、信念は変らない」と決意を述べました。

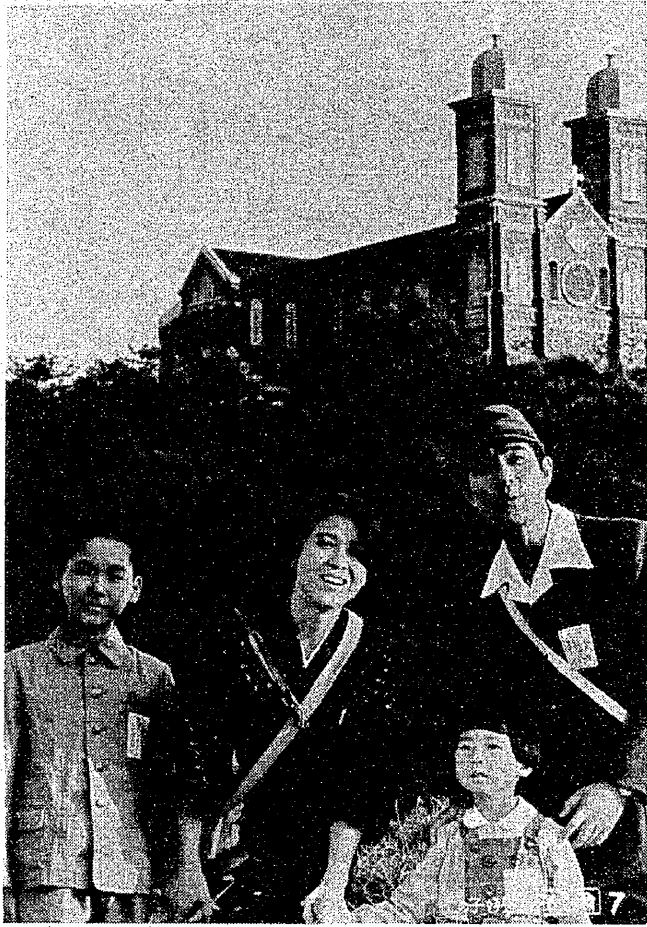
阿具根参議院議員の副議長就任祝賀会が、九月十日午後六時三十分から大牟田市上宮町の「すずき会館」で、社会党大牟田総支部、大地評、三池労組の共催で約二百五十人が参加して催されました。第百回の臨時国会が開かれていく多忙な日程をさいて、阿具根参議が定刻に会場に着き、安田大地評事務局長の司会、祝賀会は開幕。杯、阿具根氏は会場をまわり参加者とお話しました。



この日の会場は、阿具根さんの活動に関わりの深い人々が参加、副議長就任を祝うとともに、「今後も健康に留意して活躍を」と励ましました。

原稿募集
十一月九日の三池大災害から二十周年、さらに損害賠償請求の提訴から十年を迎えますが、三池労組では「パンフレット」の発行と「みいけ」での特集を企画しています。締切 九月末日必着のこと。

9・28 CO患者 中西美幸さんが逝去
九・二八、三川鉾坑内火災のCO患者、中西美幸さん(六十三歳)が九月六日十二時三十分出血性胃から衰弱の意を捧げます。住所は大牟田市宮原町一丁目三〇〇。心



解説

長崎の原爆で妻を亡くし、自らも被爆、二人の幼子を残して昭和二十六年に死亡した故・永井隆博士が、病床で書きつづけた記録をもとに、木下恵介監督が生命と平和の尊厳を描いた作品です。数々の名作を手がけてきた木下監督が「絶望の底から、もう一度、一言だけ言い残しておきたい」との思いでメガホンを取りました。昭和二十年八月九日十二時二分、長崎は一瞬のせん光の下に死の町と化し、八万人もの命が奪われました。生き残った者の絶望と悲し

11・9 遺族の 田中綾子さんが逝去
十一・九三川鉾大災害の遺族、腫白血病のため死去されました。田中綾子さん(五十四歳)が九月十二日午前〇時四分、悪性淋病にかかえ続けた心の痛みを、この映画

統一文化行事日の時間表 (9月25日)	
この子を残して	旅と女と寅次郎
11.05~13.20	13.35~15.05
15.10~17.25	17.30~19.10
19.15~21.30	
期間中の上映時間表 (9月17日~10月28日)	
この子を残して	
(1) 10.00~12.15	(2) 12.00~14.35
(3) 14.40~16.55	(4) 17.00~19.15
(5) 19.20~21.30	

気と力を与えてくれます。佐世保市に、当時の長崎・浦上を再現したオープンセットを作り破壊。あの時、何がおこったのかを生々しく伝えるなど、技術的にも優れた映画です。出演はほかに十朱幸代、淡島千景ら。脚本山田太一。松竹・ホリ企画作品。なお、九月二十五日のみ「旅と女と寅次郎」を併映いたします。

釣りキチ三平 第三十三回

イカ子の巻

石田 鈍 竿

昭和五十五年の夏、たまには家庭サービスもせんならでけんばいと、心を入れ替えて、ちょっと時期もあるし、涼みを兼ねてイカ子(この地方ではシカゴと呼ぶ)すくいに行くことにした。家族はむろん大賛成である。カンテラを物置から出して見たが何年も放ったらかしだったのでそのまま使えるはずがない。反射板がだいぶん痛んでいる。会社帰りに地金屋に寄り、石油ストーブを解体して反射鏡をはずして取り付けた。海水浴場の辺りは人が多く、「話にならんばい」と聞き、晩酌の味気ない飯をかき込み三池港の内港へ車を走らせた。俺の家はサービスが思いもよらなかつたらしい。妻や娘は飛び上がって喜び、パン、からいも、お茶、それにお菓子まで用意した。ヒクニックである。一番バスの岸壁に着いたのは辺りが暗くなりかけた頃だったが、もう五、六個のランプが水面を照らしていた。ほとんどが家族連れである。さっそくランプを海面まで降ろしたが、灯りに勢いがい。ガスの火口が大きいと思ったが、面倒くさいのでそのまま照らすことにした。それでも四、五匹並んで灯りに近づいてくる。ザブッ、と一すくいすると網の中で透明に近いイカ子が、チュッ、チュッ、と鳴く。水を張ったクーラに移すと、きれいな姿をスィーと泳がせる。ザブッ。また何匹が入ったよ。今年もシカゴすくいの話題が聞かれます。長い間連載してききました「釣りキチ三平」は次号で終わります。【編集部】